

(様式1)

令和7年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 036	提案機関名 畜神奈川県 産課
要望問題名 未利用海藻資源の活用について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 現在、畜産技術センターでは、牛由来の温室効果ガス（GHG）削減に有効な地域資源の利用方法について検討を進めており、県内から得られる未利用の海藻資源の飼料利用について調査され、現在は、対象家畜を牛としたGHG削減効果について検証されていると承知しています。 そこで、未利用海藻資源について、GHG削減効果に加え、牛の健康面への機能性や畜産物に与える影響、対象家畜を豚や鶏に給与した場合の効果等について、活用方法の検討をお願いします。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備 考	

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 海藻等を利用した肥育牛消化管発酵由来メタンガス削減技術の検証			
対応の内容等 牛の未利用海藻資源の飼料利用については、令和6年度にin vitro消化試験を実施して、メタン削減効果や海藻の飼料調製方法について調査しています。メタン削減効果が期待できる海藻については、令和7年度から飼養試験を実施して、メタンガス排出量や健康面への影響についての調査をする予定です。 牛以外の活用例では、採卵鶏では飼料に海藻を添加することにより卵黄中のヨウ素濃度の増加すること、豚では免疫能に影響を及ぼすことなどが報告されています。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備 考 「採卵鶏に対する海藻飼料の給与効果」東北農業研究, 69, 63-64, 2016 「海藻, β グルカン, 酵母の飼料添加給与が育成豚の発育、免疫能に及ぼす影響」日畜会報 80, 27-34, 2009			